

## 第3回 生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会

### 議事録

[開催日時] 平成29年3月9日(木)10:00～12:00

[開催場所] 伊達市役所保原本庁舎 2階 庁議室

[出席者] (五十順、敬称略)

(委員)

在宅介護支援ネットワークおりの会 代表	小野寺 敏
福島学院大学 福祉学部 福祉心理学科 教授	日下 輝美
パナホーム株式会社分譲事業推進部事業開発グループ	桑田 和伸
社会福祉法人伊達市社会福祉協議会 地域福祉課長	佐藤 由美
福島大学人間発達文化学類 教授	牧田 実
伊達市保原地域包括支援センター 所長	森 美樹
福島県東北地方振興局 次長	渡部 美香
(事務局)	
伊達市市長直轄理事	半澤 隆宏
伊達市市長直轄参事	宮崎 雄介
伊達市市長直轄総合政策課課長	佐藤 時則
伊達市市長直轄総合政策課主幹兼地域創生係長	岡崎 和也
伊達市市長直轄総合政策課主査	長谷川 徳也
伊達市市長直轄総合政策課地域創生担当専門主査	芳賀 欽也
(委託事業者)	
株式会社三菱総合研究所	田村 隆彦
株式会社三菱総合研究所	岩下 将務
株式会社三菱総合研究所	古市 佐絵子
エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社	牧野 夏葉

[配付資料]

- 資料1 第2回生涯活躍のまち(伊達市版 CCRC)推進協議会議事概要
- 資料2 ヒアリング結果報告
- 資料3 伊達市版生涯活躍のまち基本構想(案)
- 資料4 今後のスケジュール

## 1. 開会

- 事務局(佐藤時)より開会のあいさつを行った。
- 事務局(佐藤時)：

本日会議開催にあたり、日下委員より、欠席の連絡をいただいております。また、中野委員、斎藤委員より、遅れて出席する旨の連絡をいただいております。本日は最後の推進協議会となり、これまでご協議いただきました「CCRC 基本構想(案)」をご協議いただきます。第2回の協議会開催後から、事業者等へのヒアリングを行いました。本日は、このヒアリング結果についてもご報告いたします。お気づきの点がございましたら、ご意見賜りますよう、よろしくお願いいたします。議事につきましては、牧田委員に議長をお願いして進めていきたいと存じます。牧田委員、よろしくお願い致します。

## 2. 議事

### (1) 第2回推進協議会の振り返り

- 牧田委員：  
事務局より、説明をお願いします。
- 事務局(長谷川)より、次第及び、資料1、3月14日(火)に開催する生涯活躍のまちづくり講演会の説明を行った。

- 牧田委員：  
何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。  
(質問なし)

## (2) ヒアリング結果報告

- 牧田委員：  
事務局より、説明をお願いします。
- 事務局（三菱総合研究所 古市）より、資料2の説明を行った。
  
- 牧田委員：  
何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。  
(質問なし)

## (3) 伊達市版生涯活躍のまち基本構想（案）

- 牧田委員：  
事務局より、説明をお願いします。
- 事務局（三菱総合研究所 田村）より、資料3の説明を行った。
  
- 牧田委員：  
何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。
- 事務局（長谷川）：  
資料3に関して、補足がございます。資料3は、第2回推進協議会では、「伊達市版生涯活躍のまち（CCRC）」として配布しましたが、今回第3回推進協議会では、「伊達市版生涯活躍のまち構想～地域が家族になるまちづくり～」に変更しております。現在、「CCRC」という名称から「生涯活躍のまち」といった名称に、国がシフトしていることを踏まえ、変更しました。また、キャッチフレーズは、P19に記載しております、「自然の恵みあふれる桃源郷 健幸都市 伊達 ～“せっかくどうも”で紡ぐ心のゆとり 地域が家族になるまちづくり～」に、変更しました。こちらも第2回推進協議会より、委員の皆様のご意見を参考に變更いたしました。何かご意見・ご質問がございましたら、ご発言をお願いします。また、「生涯活躍のまち（伊達市 CCRC）構想【概要版】」を別途配布しております。伊達市版生涯活躍のまち構想及び、概要版は今後の方向性を示す資料として、位置付けて、現在作成しております。ヒアリング結果等踏まえ、反映しておりますが、ある特定の分野に焦点を絞った内容を記載している箇所もあります。こちらに関しましても、どのように標記したほうが良いのか等、併せてご意見をお願いします。
  
- 牧田委員：  
協議とのことですので、1人ずつご意見等をお願いします。
- 小野寺委員：  
昨日、山梨県都留市で行われている CCRC の動画を見た。この動画では「大学で学びましょう」等、地域の資源を活用した PR が行われていました。伊達市は P3 に記載してありますとおり、介護施設

が非常に多く、中山間地域の中では医療介護サービスがトップクラスで充実しているエリアではないでしょうか。他市と比較する上で、医療介護が充実している点を PR していただけると良いと感じました。

- 糸田委員：

コミュニティづくりやコミュニティの場の提供ということで、地域が家族になるまちづくりを実施することは良いとは思いますが、ヒアリング結果から若い世代の必要性が示されている中、若い世代が住む環境を行政主導でどのように整備していくのが今後の課題のように感じました。

- 佐藤委員：

P1 の記載内容を踏まえ、今後、人を呼び込むには、観光等を視野に入れた取組が必要になるのではないのでしょうか。資料は「健康づくり」と「ものづくり」に関して、記載いただいておりますが、定住した際に、こもりがちな生活にならないようにする工夫や、移動支援、長く暮らせるように支援する定着支援が大切なように感じました。コンシェルジュやガイド等、ちょっとしたことでも手助けいただけて、相談にのっていただけるような要素が必要のように感じました。また、自然の恵みや風景等だけではなく、新しい仕組みや資源を取り入れる必要があるのではないのでしょうか。新市計画の会議で、保原の商工会が新たな取組を実施しても良いといった話も伺っております。年配の方が寄れるような、喫茶店や郷土料理が食べられるお店が並ぶレトロ通りのようなものを整備する構想があっても良いのではと感じました。図 29 の最後のフレーズに、「心のよりどころとなる安心と誇りのまちづくり」とありますが、安心と誇りが並ぶことに違和感があります。「誇り」よりも、「ふれあい」や、「支え」、「さりげなさ」等をイメージする言葉の方がよいのではないのでしょうか。

- 森委員：

都会から伊達市に移住している方から、数件相談を受けましたが、相談内容として多いのが、移動手段に関する問い合わせです。伊達市へ移住を希望する方はいますが、移動手段の問題を考えると、難しい、戻りたいと回答する方が複数いました。そのため移動手段に関して、構想の中で見える形で触れていただきたいと思います。阿武隈急行だけでは押しが弱いため、例えば、デマンドタクシーを今後どのように整備していきたいか等の記載がありますと興味をもたれる方が増えるのではないかと感じました。ウォーキングで 1 時間歩く人はいますが、通常の活動(日用品等の買い物等)で、1 時間歩いて行こうと思う人はいないため、通常の利便性とウォーキング等の自然を活かした健康づくりの両面で整理いただけると、都会から来られる方が安心するのではないのでしょうか。

- 渡部委員：

主にリタイアした高齢者が対象とのことですが、子育て世代や若い人へのアピールを行い、活気のあるまちづくりを目指した方が良いのではと感じました。若い世代に対するアピールポイントとしては、豊かな自然の中で子育てができるや教育の面でどのような取組を実施しているのか等が、もう少しあると良いのではと感じました。移動手段に関して、都会の人にとって、1 時間に数本しか走らない阿武隈急行を日常的な使用することは難しく、車での移動になるように感じました。若い人であれば問題ないかもしれませんが、免許の取得や車の購入が難しい人にとっては、別の移動手段を提案する必要があるように感じました。

- 牧田委員：

生涯活躍のまちが、総合的な政策やまちづくりそのものになりつつあるように感じました。この場

合、伊達市の総合計画との違いを整理し、整合性が取れるところを強化する方針で、今後進めるといふ理解でよろしいのでしょうか。総合計画との関係や位置付けが気になります。

- 事務局（宮崎）：

総合計画に近い内容を生涯活躍のまちでも実施しようとしておりますが、生涯活躍のまちは、総合計画と異なり、移住者（アクティブシニア）を受入れる環境づくりに重点を置くといったコンセプトを持って取り組んでいる点で、大きく違うと認識しております。また、多世代や子育て世代を対象とした空き家バンクをつくる等の移住政策を別途検討しておりますが、既存にある移住施策のうち、アクティブシニアをターゲットとした取組を生涯活躍のまちで実施するという位置付けで対応したいと考えております。一般的な移住に比べて、移動手段がより課題になるため、この部分を重点に検討することで、総合政策と違いを示すことができるのではないかと考えております。40代や50代は、子供を育てている世代でもあるため、子育ての目線は一部入れる必要があるのではないかと考えております。

- 森委員：

資料の見た目の点で、例えば P16 の図 26 の字が小さいため、大きく載せてほしい。その他の図に関しても同様に、第3者にとって気になる結果（特に、意向調査）を示す図等は、拡大して貼り付けるなど、メリハリをつけていただけるとよい。

- 佐藤委員：

市の資源に関して、市内には現在潜在的な待機児童が 50 名程度いると聞きます。各地域によって状況は異なりますが、待機児童がいるために就労できない、土日に行われている何らかの地域活動に参加出来ない等の懸念があります。マッチングの充実が必要ではないでしょうか。

- 事務局（宮崎）：

市全体で見た場合、受け入れ可能な施設はありますが、定住先近隣にあるかどうかは、また別の話と認識しております。個人個人に話を伺った際に、子供を預ける場所がなくて困っているといった意見に対し、伊達市としても、ネウボラなどの対策も含めて、この問題はしっかり対応したいと思っております。また、待機児童を潜在的な部分を含めて、0 人にするという考えを持っておりますので、資料に記載した文言が一人歩きしないよう、修正いたします。また、牧田委員よりご質問がありました、どのように今後計画に落とし込むかの点に関しまして、この後今後のスケジュールで、別途説明はありますが、来年度は実施計画の作成に進みたいと考えております。計画作成にあたっては、高子等の実際の動きに併せて実施していきたいと考えております。体制としては、本会議にご出席いただいている委員の皆様と、現場に近い方に参加いただき、最終的にはできれば運営にも携わっていただきたいと考えております。現在検討している構想は、理想に近い部分がありますが、来年度検討する内容は、実際にどのように進めていくのかといった内容を議論していく予定です。

- 事務局（田村）：

「誇り」とは、「ここに住んでよかったと思える」といった、意味合いで構想に記載しました。しかし、安心とそぐわないといったご意見を伺い、文言を見直すようにいたします。

- 渡部委員：

新聞報道等にもありましたが、福島県は来年度の重点プロジェクトとして、人口減少・高齢化対策として、県内定住に力を入れていくことを発表いたしました。そのうち、ヒアリング結果にもありましたが、移住者向けの住宅取得の支援に関しては、補助制度を設けるように新年度に予算計上し

ております。市町村が、移住者向けに住宅取得支援事業に対して、県の補助金を交付するといった制度です。子育て世代や若者世帯に関しては、さらに補助額を加算したいと考えております。また、移住者向けに体験住居として仮設住宅を整備する事業に対しては、補助金を計上したいと考えております。移住を促進するために、定住推進委員を東京の日本橋にある福島館に配置し、福島県内に7地域ある各地方振興局に移住コーディネータを配置する方針で検討をしております。上記は、予算が成立した場合の話ではありますが、配置に向けて人員確保の準備を実施しております。移住コーディネータの方が窓口になりまして、移住や定住の取組に対して、様々な情報を収集し、希望者に提供することや、市町村のコーディネータを実施すること等を担う職員を配置しようと考えております。地方振興局に地方創生担当職員（主任）を配置し、この職員を中心に、地方創生と定住・2地域居住の促進、地方振興局毎に関係機関を集めた協議会のような組織を立ち上げるような動きがあるため、予算が成立すればこれらの制度や仕組みを活用いただきたいと思います。

- 小野寺委員：

福島県で移住に対する制度が整いつつあるとのことですが、移動手段に関して、NPO 同士で連携し、店に行くのではなく移動店舗のような仕組みを検討しております。このような事業に対する補助金制度等がありますでしょうか。

- 渡部委員：

来年度の予算で、説明いただいたような事業に対する補助金の計上は実施されていないかと思えます。ただし、各市町村より要望やニーズがあれば、今後、検討の可能性は十分にあるかと思えます。

- 事務局（長谷川）：

欠席されている委員もいらっしゃいますので、本日いただきましたご意見に関しては、改めて皆様にお伺いしたいと考えております。本日より1週間後ぐらいまでに、構想に関して何かご意見がございましたら、電話やメールにてご連絡ください。

- 森委員：

約2年前に市民協働課が主催の講演会で、子供たちが伊達市で生まれたときに、「誇り」を持てる地域づくりというものがありました。「誇り」は使い方によっては、ふるさとをイメージする言葉になり素敵な言葉になるのではと感じました。ただし、「安心」と組合せることには違和感がありますので、文言を見直していただきたいと思います。

- 牧田委員：

それでは、以上で本日予定していた案件はすべて終了いたしました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。議長のご責を終わらせていただきます。ありがとうございました。

### 3. その他

- 事務局（佐藤時）：

本日の議事は、これにて終了します。続きまして、事務局より資料4の説明をお願いします。

- 事務局（長谷川）より、資料4の説明を行った。

- 事務局（佐藤時）：

資料4に関して、何かご意見・ご質問がございましたら、発言をお願いします。

（質問なし）

- 事務局（佐藤時）：  
年度末で人事異動される方もいらっしゃるかと思います。詳細が決まりましたら、事務局までご一報いただくと、助かります。よろしくお願いいたします。

#### 4. 閉会

- 事務局（佐藤時）：  
本日はお忙しいところをお集まりいただきありがとうございました。また、長時間にわたり、ありがとうございました。これをもちまして、第3回生涯活躍のまち推進協議会を閉会いたします。

以上